

コンセプトブック

第3次

柏市 教育振興計画

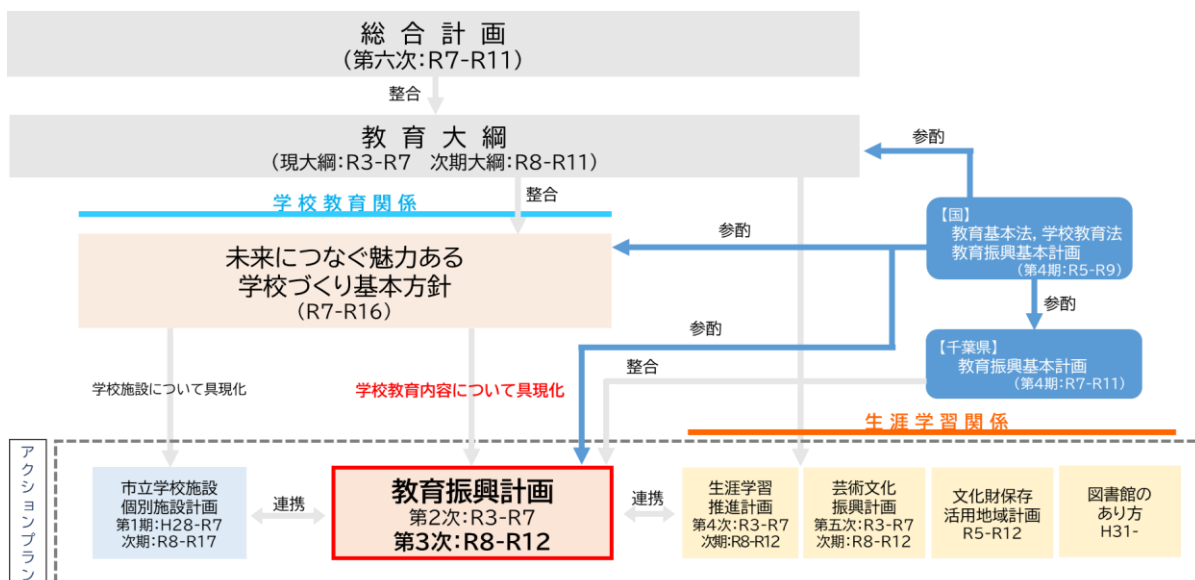
自他の対話を大切にしながら、学び続けるかしわっ子
～よりよい自分 よりよい“かしわ”を目指して～



令和8年3月
柏市教育委員会

柏市教育委員会では、令和7年3月に「よりよい教育環境の確保」と「教育の質の向上」を目指すため、「柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針（以下、基本方針）」（令和7年度～令和16年度）を定めました。

教育振興計画は、この基本方針の学校運営に関する取組を具現化する計画として位置付け、「柏市第六次総合計画」や「柏市教育大綱」も踏まえながら作成しています。



柏市教育委員会では、市立小学校、中学校、高等学校で育つ“かしわっ子”たちが、未来に向かっていきいきと過ごすことができる魅力的な学校づくりを推進していくため、目指す子ども像を設定しています。

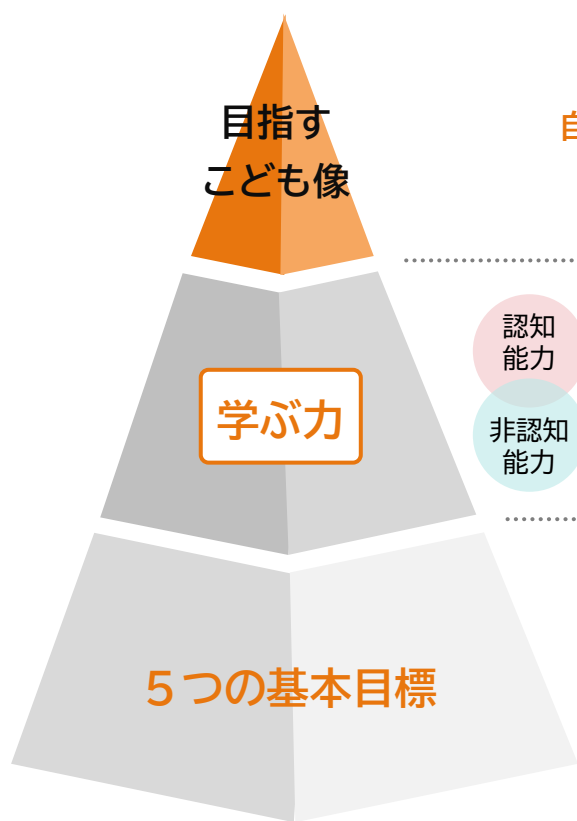
自他の対話を大切にしながら、学び続けるかしわっ子
～よりよい自分 よりよい“かしわ”を目指して～



目指す子ども像には、予測困難な時代の中で、自他を尊重し、多様な人々との関わり合いを通じてなりたい自分を模索し、個々のそれぞれの想いや、よりよい柏、よりよい社会の実現を目指して学び続ける子どもになって欲しい
そんな願いが込められています。

柏市で育む“学ぶ力”とは

柏市では、ペーパーテスト等で測ることができる学力だけでなく、**自ら考え判断する力**や**表現する力**、とりわけ、外側からは見えにくい、**子どもの内面的な「学びに向かう力」**を重要視し、育成に取り組んできました。



自他の対話を大切にしながら、学び続けるかしわっ子
～よりよい自分 よりよい“かしわ”を目指して～

認知
能力

- 知識・技能を活用して、自ら考え判断・決定し、表現・行動できる力
- 子どもたちに身に付けてほしい「4つの力」
(自他と対話する力、自他を大切にする力、学び続ける力、よりよくしようと挑戦する力)

非認知
能力

- 認知能力と非認知能力の調和により身に付く「生きる力」

1. 子ども主体の学び
2. 連続性のある学びの実現
3. 多様な教育ニーズへの対応
4. 学びを支える教育環境の構築
5. 家庭・地域との連携・協働の推進



施策体系

基本目標 1

子ども主体の学び

施策 1 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

施策 2 デジタル学習基盤による情報活用能力の育成

施策 3 グローカル人材の育成

基本目標 2

連続性のある学びの実現

施策 4 小中一貫教育の推進

施策 5 幼保こ小連携の推進

基本目標 3

多様な教育ニーズへの対応

施策 6 個別の支援が必要な児童生徒への対応

施策 7 不登校児童生徒への支援の充実

施策 8 いじめ対策の充実

施策 9 日本語支援の充実

基本目標 4

学びを支える教育環境の構築

施策 10 働きがいのある職場づくりと業務の適正化

施策 11 教職員の資質・能力の向上

施策 12 魅力あるイチカシづくり

施策 13 安全・安心な学校施設の充実

施策 14 学校の適正規模・適正配置の推進

施策 15 健康を支える給食と食育の充実

基本目標 5

家庭・地域との
連携・協働の推進

施策 16 コミュニティ・スクールの活性化

施策 17 子どもの居場所づくり

施策 18 家庭への支援

施策 19 防災体制の整備

基本目標 1

子ども主体の学び

児童生徒が自らの興味・関心、自身の理解や進度に合わせて調整しながら、主体的に学びに取り組むことで、必要な資質・能力を育成し、次世代を担う持続可能な社会の創り手を育成します。



各校の実態を踏まえ、児童生徒が自己選択や自己決定を重ねながら、主体的に学びを深めていく探究的な学びを重視した授業づくりを推進します。



部活動の地域展開の推進や、小学校の水泳指導委託を進めていくほか、道徳教育の充実や、読書活動の推進を図り、知・徳・体をバランスよく育成します。

グローバル人材育成に向けて、外国語と触れ合う機会の創出を含めた英語教育の推進や、地域学習や地域と連携する教育活動を示したカリキュラムを各学校に共有します。

基本目標 2

連続性のある学びの実現

幼稚園・保育園・認定こども園から小学校、中学校までの円滑なつながりを実現させるため、系統性・連続性のある一貫した教育を実施し、安心して学ぶことができる環境を整備します。

小中一貫教育の推進に向け、「柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり(KMGs)」に取り組んでいます。小・中学校間の連携等を通じて、義務教育9年間を見通した系統的な教育活動を実施していきます。



3校の職員が対面での共有



場所が離れていてもオンラインで共有

架け橋期(5歳児から小学校1年生の2年間)教育の充実に向け、各園と各校との交流や教職員の連携活動等を推進します。



交流活動

基本目標3

多様な教育ニーズへの対応

「誰一人取り残さない教育」の実現に向けて、個々の教育的ニーズに対応した学びの場を整備し、児童生徒の学ぶ権利を守るとともに、安全・安心な学校づくりを進めます。

新規組

クラスに入りづらいと感じている児童に居場所や学びを提供できる場所として、小学校への校内フリースクール設置を拡げます。
(中学校は全校に設置済)

困難を抱える児童生徒や家庭への働きかけを行うスクールソーシャルワーカーの学校現場への配置や研修の充実を図ります。

いじめ防止に向けて、未然防止の観点や、早期発見・再発防止に向けた体制づくりを進めます。

日本語を母語としない外国籍等の児童生徒が適切に教育を受けられるよう、持続可能な日本語支援体制を整備します。



いじめ防止サミット KASHIWA

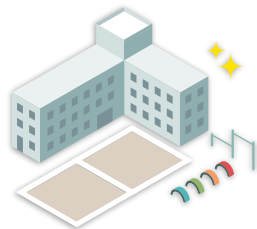
基本目標4

学びを支える 教育環境の構築

子どもの学びを支える教職員がやりがいをもって、過度な負担なく働ける環境を整備するとともに、児童生徒が安全・安心して健やかに育つことのできる学校づくりを推進します。

主体的に学び続ける教職員の育成を目指して、研修を設計・実施します。

また、教職員が子どもと向き合うための時間を確保できるように、業務の適正化と働き方改革を推進します。



将来に向けて地域に根差し、地域の子どもたちに選ばれる学校を目指すため、市立柏高校の魅力向上策を検討します。

校舎等の老朽化対策を計画的に実施します。
また、児童生徒数の推計を踏まえ教室不足に対応し、子どもたちが安全・安心に過ごせる教育環境を整備します。



基本目標5

家庭・地域との 連携・協働の推進

学校と家庭、地域が連携・協働することにより、社会に開かれた教育課程の実現を目指し、「家庭・地域とともにある学校づくり」につなげていきます。

コミュニティ・スクールを活性化させ、学校・家庭・地域が連携しながら、持続可能な地域学校協働活動を支援します。

新規組

アフタースクール事業や朝の居場所づくりを推進し、全ての児童が安全・安心に過ごすことができる居場所の確保を目指します。



成果を測る主要な指標

基本目標	指標	基準値	目標値
子ども主体の学び	物事に取り組んだときに、 どうすればもっとよくできるか考える ことのできる児童生徒の割合	小:78.6% 中:85.0%	小:90% 中:90%
	課題解決に向けて、自分で考え、 自分から取り組む児童生徒の割合	小:80.6% 中:78.7%	小:90% 中:90%
連続性のある 学びの実現	小中一貫教育を意識した取組を 行っている学校の割合	12.6%	100%
	幼保こ小の接続段階がフェーズ3の実施 (*)	0校	42校
多様な教育ニーズ への対応	SOSを出す相手・手段があると考える 児童生徒の割合	84.9%	100%
学びを支える 教育環境の構築	「自分が安心して学ぶことができている」 と考えている子どもの割合	83.6%	100%
	「子どもと向き合うことができる時間が 確保されている」と感じている 教職員の割合	62%	70%
家庭・地域との 連携・協働の推進	アンケートで「学校・家庭・地域が連携 して子どもを育てる環境が整っている」と 回答した保護者の割合	83.6%	85%

(*)幼保こ小の接続段階の「フェーズ3」は、文部科学省が示す幼児教育と小学校教育の円滑な接続を目指すため、4段階にわけたプロセスの3段階目



第3次計画全文は
こちらから

発行：柏市教育委員会

編集：柏市教育委員会 教育総務部 教育政策課

〒277-8503 千葉県柏市大島田 48 番地 1

T E L 04-7197-2630 F A X 04-7190-0892

